

次世代自動車センター浜松 活動レポート Vol. 294

■ デジタルものづくり対応支援事業

静岡大学の学部生による地域中小企業(会員限定)での インターンシップ事業「2024年度 成果報告会」

次世代自動車センター浜松では、中小企業のデジタル人材確保を目的とした静岡大学の学生による、ものづくり中小企業でのインターンシップ活動を行っています。

2024年度は、3月10日から3月26日の期間で、受入企業2社において2名の学生が参加して、それぞれ5日間のインターンシップの実習を実施しました。

今回、インターンシップ事業の成果を確認し関係機関において成果を共有するため、受入企業及び参加学生の皆様にご参集いただき、当センターの望月センター長からの成果報告と実習を指導した担当者様と参加学生の皆様からコメントをいただく、成果報告会を開催しました。

■日 時： 2025年4月15日(火) 14時～15時

■場 所： 静岡大学浜松キャンパス

■参加者： 静岡大学・受入企業2社／学生2名・大学関係者2名・受入企業4名

<開会>



<ご挨拶：静岡大学 福田工学部長・富田教授>



<センターからの成果報告>



【受入企業・参加学生からの報告】

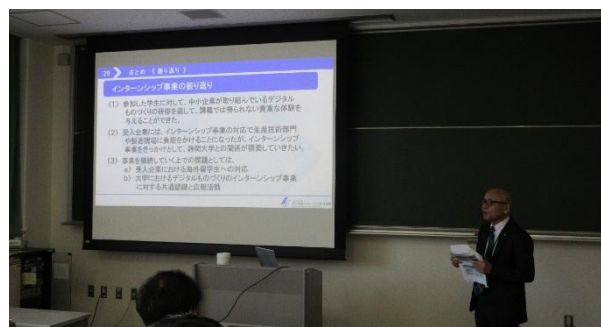
<(株)コーリツ 様>



<三恵(株) 様>



<まとめ>



【参加者の声】

＜受入企業＞

- ・「図面⇒プログラム作成⇒加工」で、プログラム作成の自動化を盛り込んだカリキュラムで実施できた。
- ・学生と触れ合うことによって、社員のスキルアップにつなげることができた。
- ・大学で学んでいない分野でも積極的に吸収しようとする学生の学習意欲を感じた。
- ・自動車業界を取り巻く状況、今後の課題、環境への取り組みなどを話す機会があり、大変有意義な時間となった。
- ・3Dプリンタの造形まで実習を予定通り大きなトラブルなく進められた。
- ・基礎知識や専門用語などを伝える方法や手段の準備に工夫する必要があった。
- ・遅延なく進められたのは、実習生のポテンシャルの高さによるものと考ええる。
- ・今回の経験は、自身にとっても貴重な経験であり、基礎知識を見直すきっかけになった。

＜参加学生＞

- ・社員に与えられる裁量の大きさとそれを支える責任感の強さを持って働いていることがわかった。
- ・デジタルデータを用いたNC旋盤やワイヤーカットによる加工方法及び加工した部品の寸法や表面粗さについての様々な測定方法と測定誤差が勉強になった。
- ・デジタルものづくりは、製造工程において安定した品質を生み出す環境を整え、標準化された仕組みとして品質を担保するツールであることを学んだ。
- ・今後も広い視野を持ちながら時代の変化に適応し、主体的に学び続ける姿勢を持ち続けたい。
- ・大きな発見が3つあった。①安全と品質に細心の注意を払っていること、②デジタルとアナログが共存していて、どちらが欠けてもものづくりが成り立たなくなること、③CADの初心者でもものづくりに参加できること。
- ・エンブレムを3Dプリンタで造形することにより、エンジニアの面白さを体感できた。
- ・未経験でここまでできたことを評価していただけて本当にうれしかった。
- ・新たな分野に、今後も積極的に関わっていきたい。